

株式会社 丸井グループ

2025年3月期 第1四半期決算概要



2024年8月6日

25年3月期 第1四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 共創投資
- ・ BS/資本配分
- ・ ESG

通期見通し

25年3月期 第1四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 共創投資
- ・ BS/資本配分
- ・ ESG

通期見通し

- ① 総取扱高は **10%増の1兆1,746億円**（前年差+1,089億円）となり、
四半期では過去最高

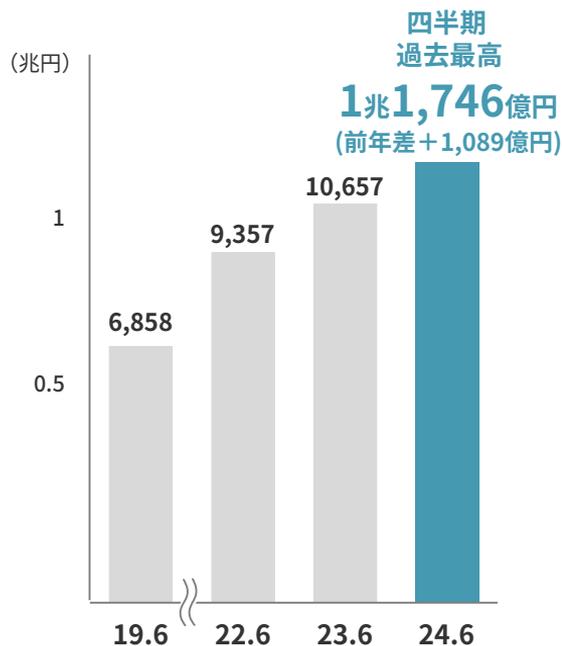
- ② 連結営業利益は**102億円**（前年差+23億円）と第1四半期としては過去最高益*1

- ③ **フィンテック営業利益は15億円増益の105億円**
実質営業利益*2は10億円増益の100億円、前年第3四半期からの増益基調が継続
小売営業利益は7億円増益の18億円と順調に増益幅を拡大

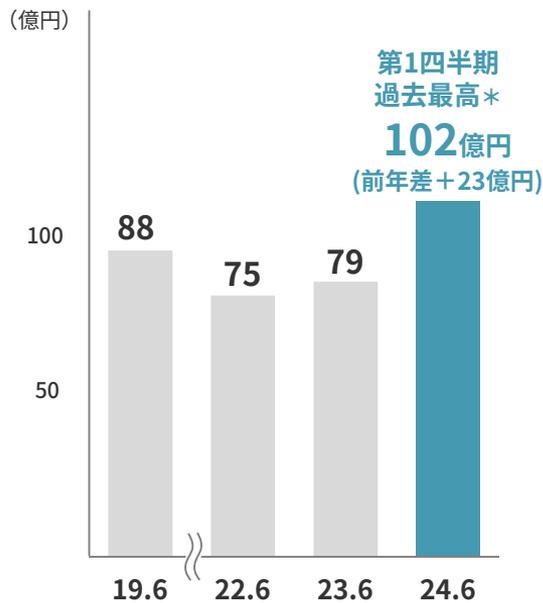
*1 四半期開示の義務化以降

*2 実質営業利益 … 債権流動化の前年差影響を除く営業利益

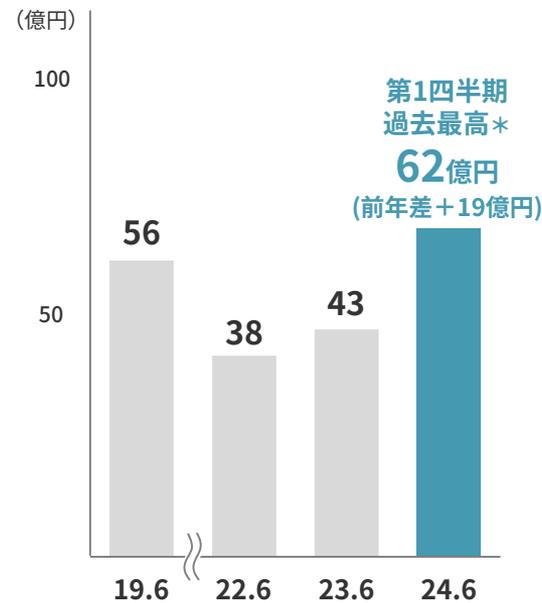
■ グループ総取扱高



■ 営業利益



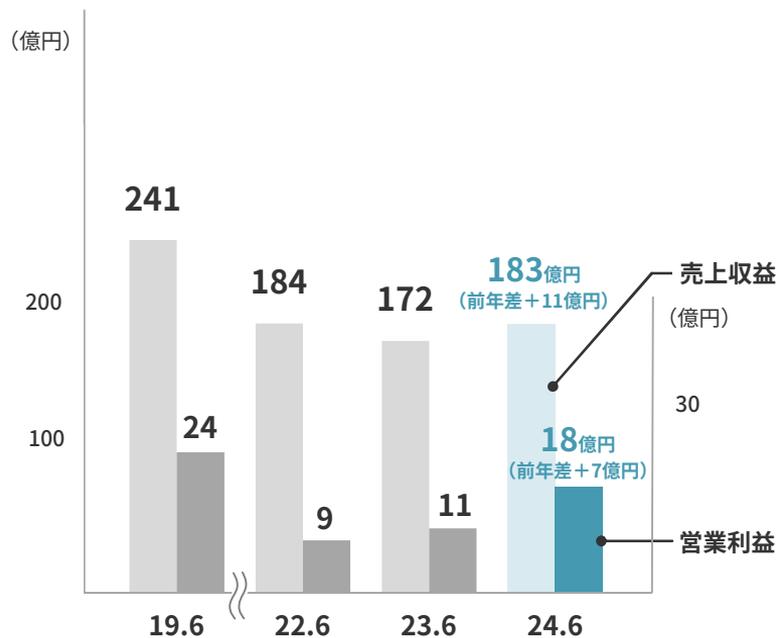
■ 当期利益



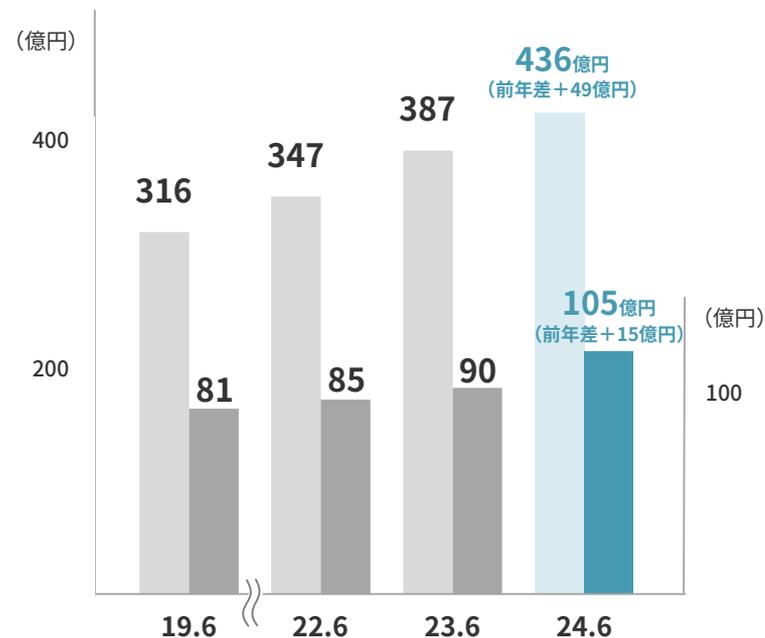
* 四半期開示の義務化以降

セグメント別の状況（売上収益・営業利益）

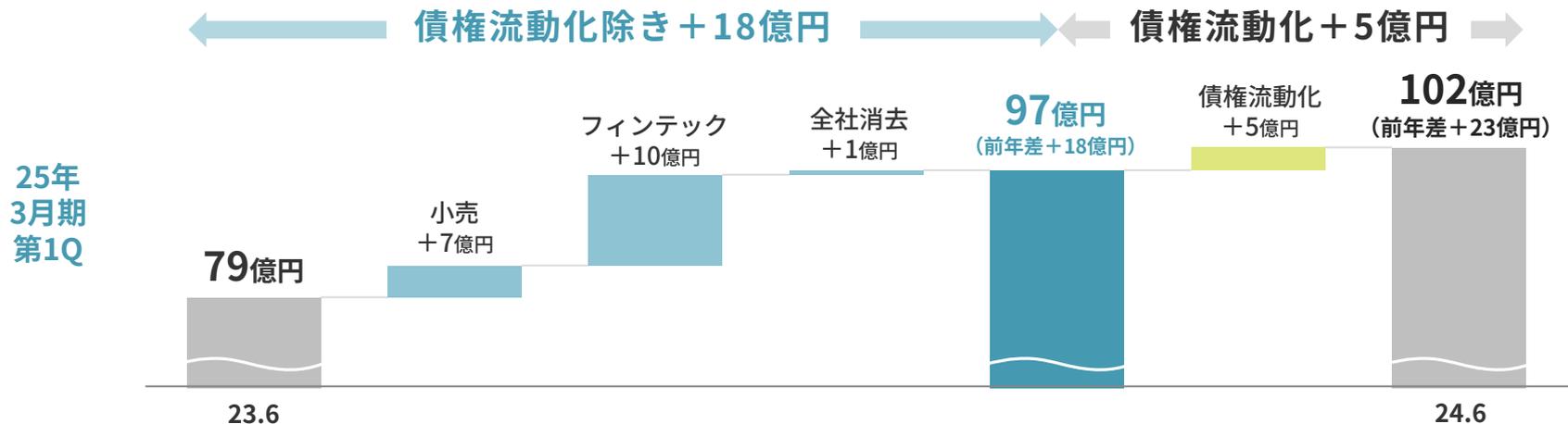
■ 小売



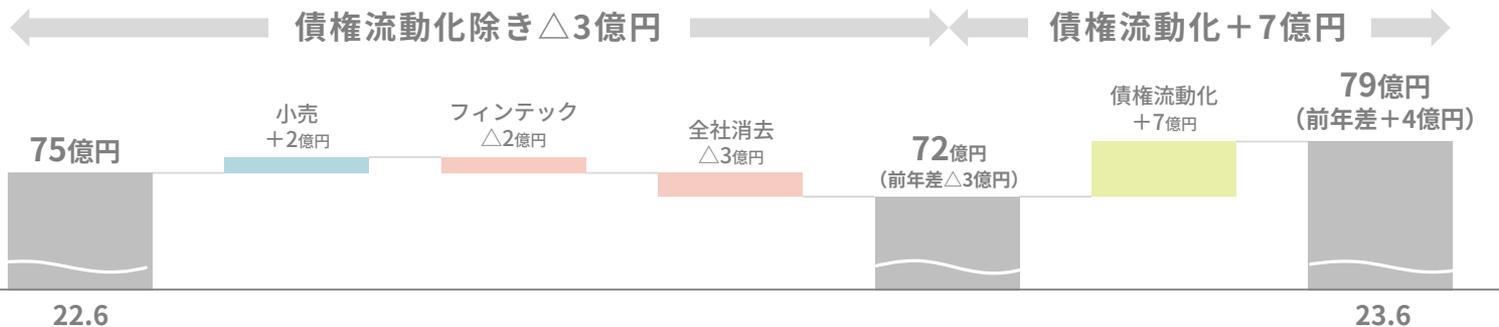
■ フィンテック



営業利益増減の内訳



<参考>



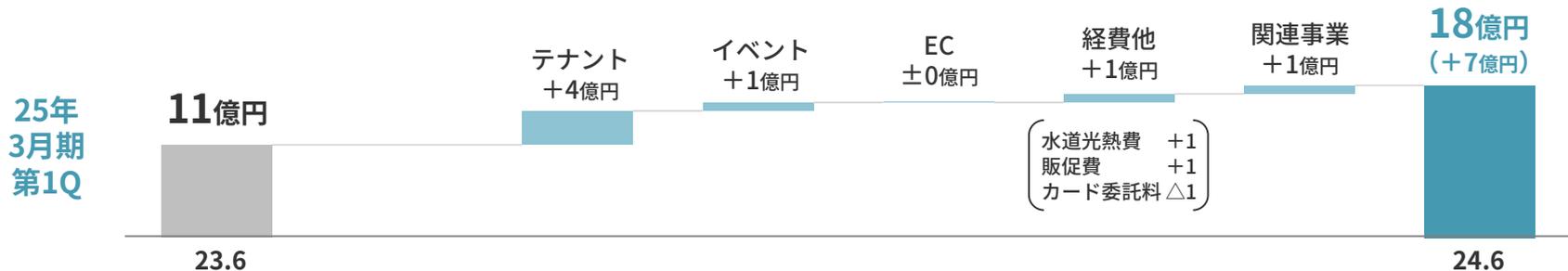
25年3月期 第1四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 共創投資
- ・ BS/資本配分
- ・ ESG

通期見通し

小売 営業利益の増減内訳

第1四半期の営業利益はテナント収入の増加等により7億円の増益



<参考>



テナント収入の状況

定借面積増加と月坪家賃の単価アップ等により、前年に対し4億円増加

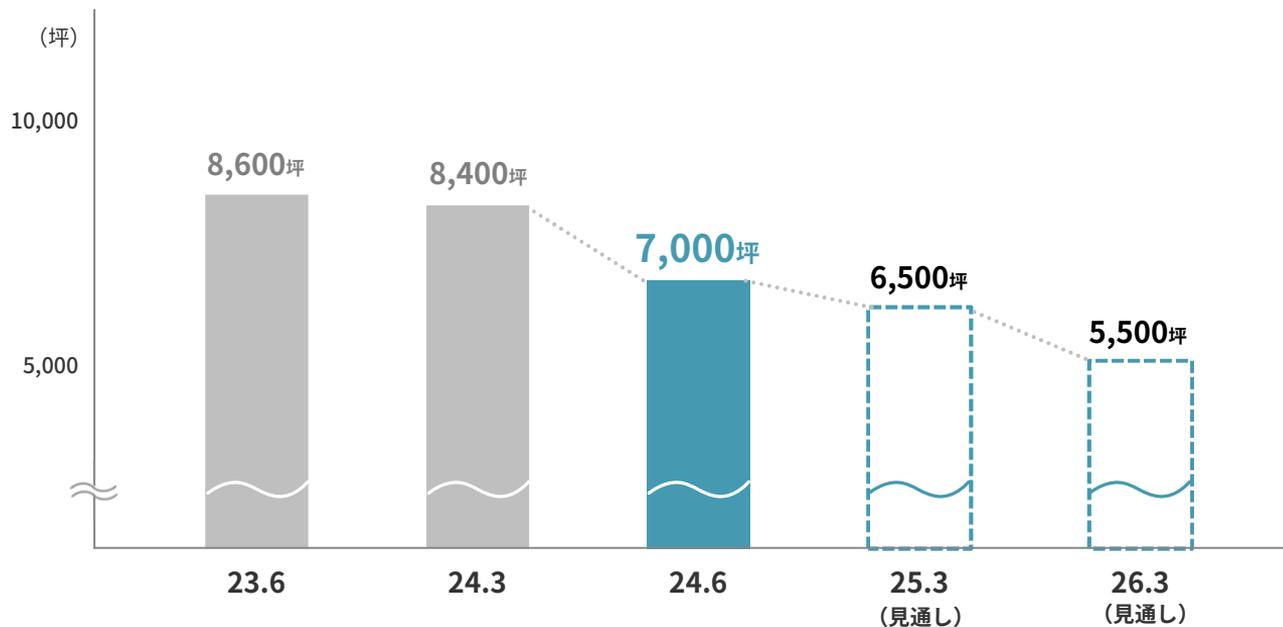
■ テナント収入の増加影響



*テナント収入は、定借テナント収入および消化仕入テナント収入の合計値です

第1四半期の未稼働面積は7,000坪となり今後も縮小、テナント収入は拡大の見込み

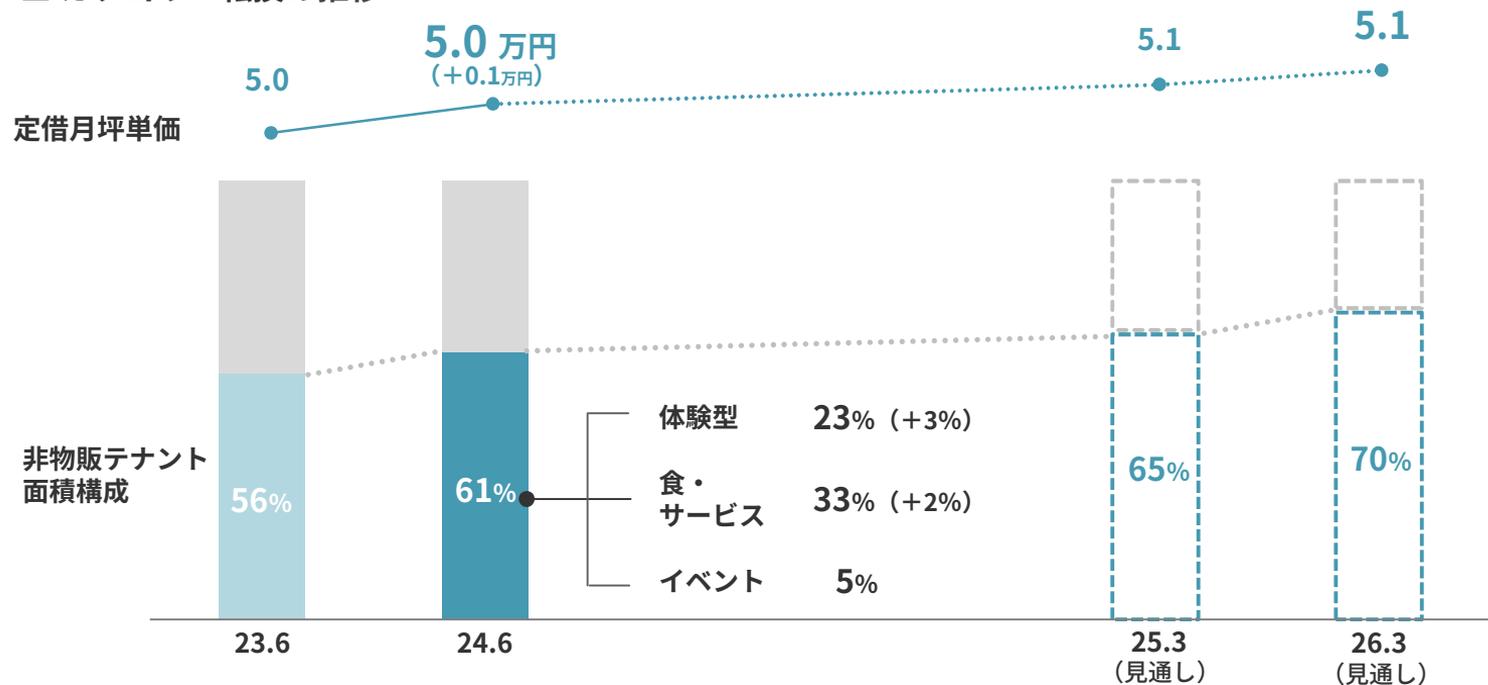
■ 未稼働運行面積の推移（運行平均）



売らない店の進捗（カテゴリー）

24年6月時点の非物販テナント面積の構成比は61%（前年差+5%）

■ カテゴリー転換の推移



お客さまに喜んでいただける、体験型・食・サービステナントの導入を推進

まじかるちかわストア



新宿マルイ本館
(24年3月)

BTS COSMOS STORE



新宿マルイ本館
(24年2月)

食の集積エリア



有楽町マルイ
(23年12月)

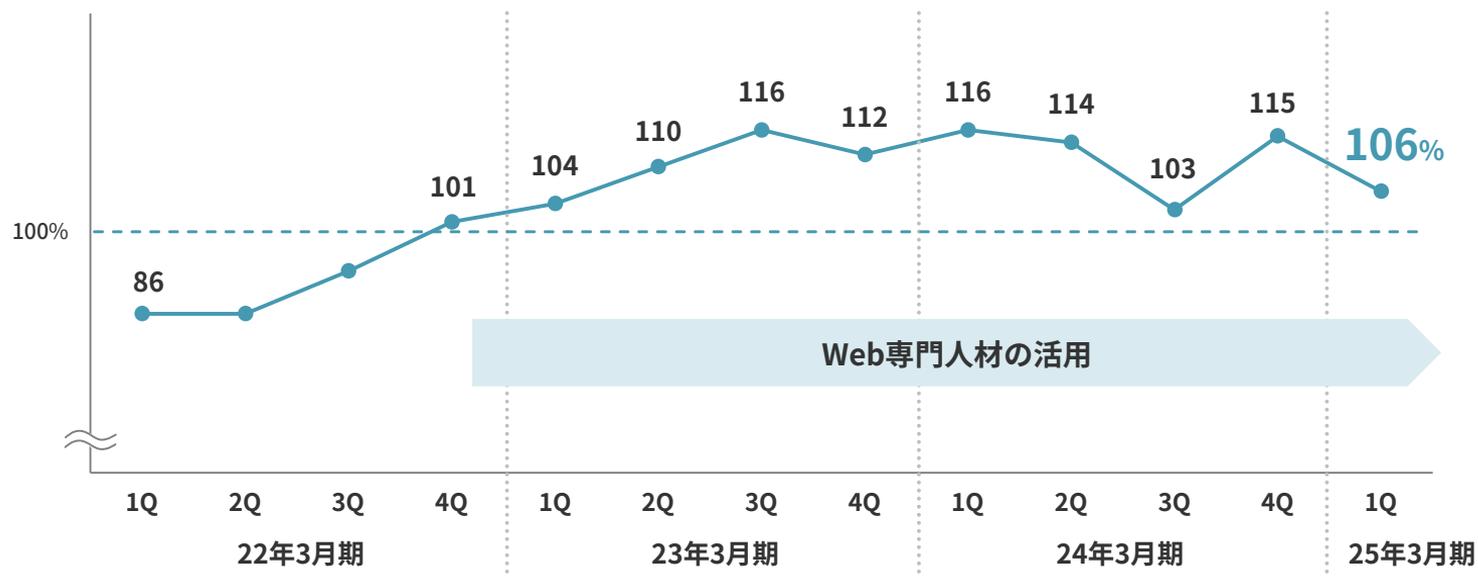
Galaxy Studio Osaka



なんばマルイ
(23年8月)

取扱高は、前年比106%と10四半期連続で増加

■ EC取扱高 前年比



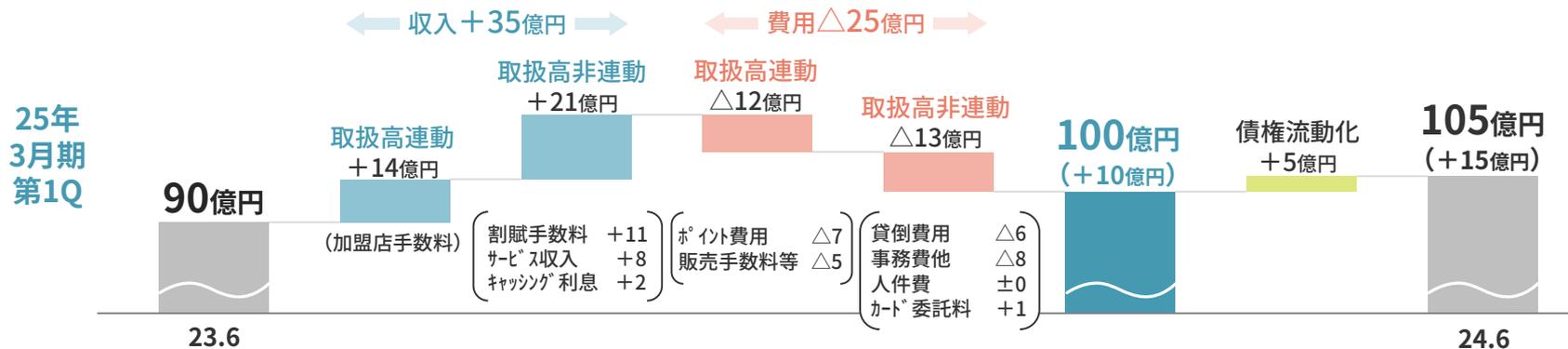
25年3月期 第1四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 共創投資
- ・ BS/資本配分
- ・ ESG

通期見通し

フィンテック 営業利益の増減内訳

取扱高の拡大にともない収入が増加、新規入会の急回復が一巡したこと等により15億円の増益



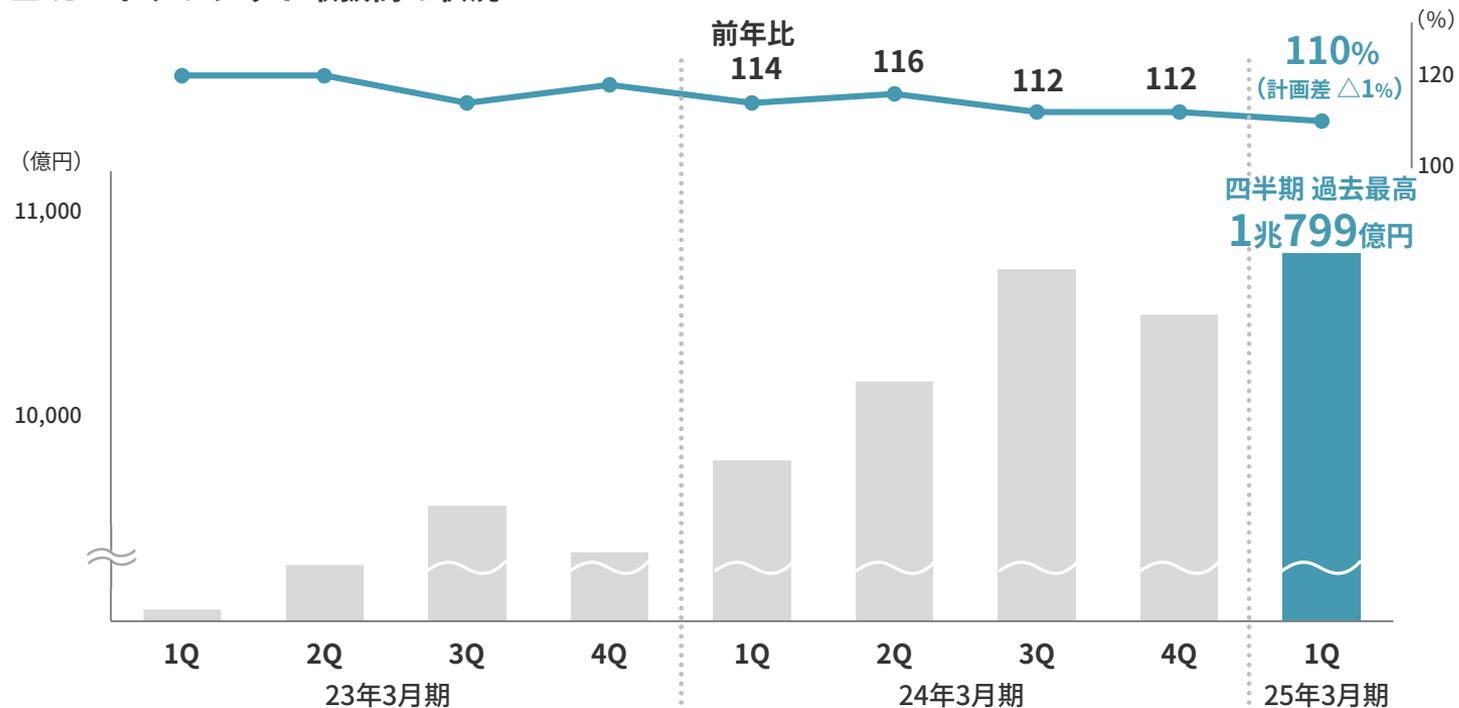
<参考>



カードクレジット取扱高の推移

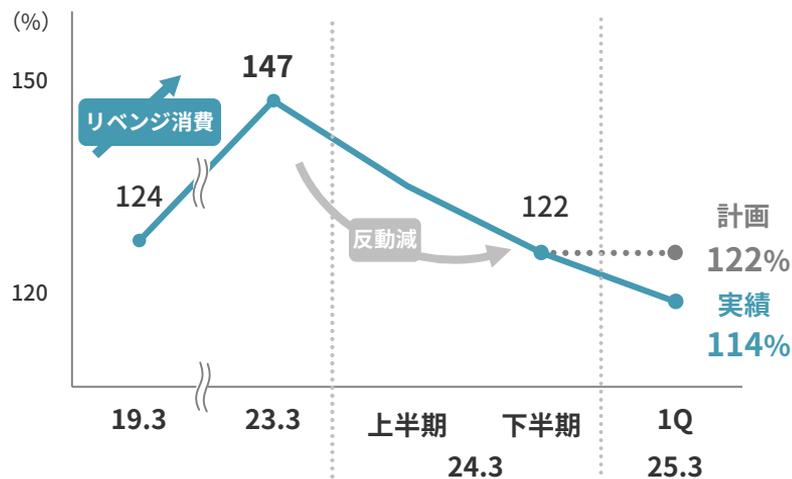
第1四半期の取扱高は1兆799億円（前年比110%）、四半期では過去最高も計画を1%下回る

■ カードクレジット取扱高の状況



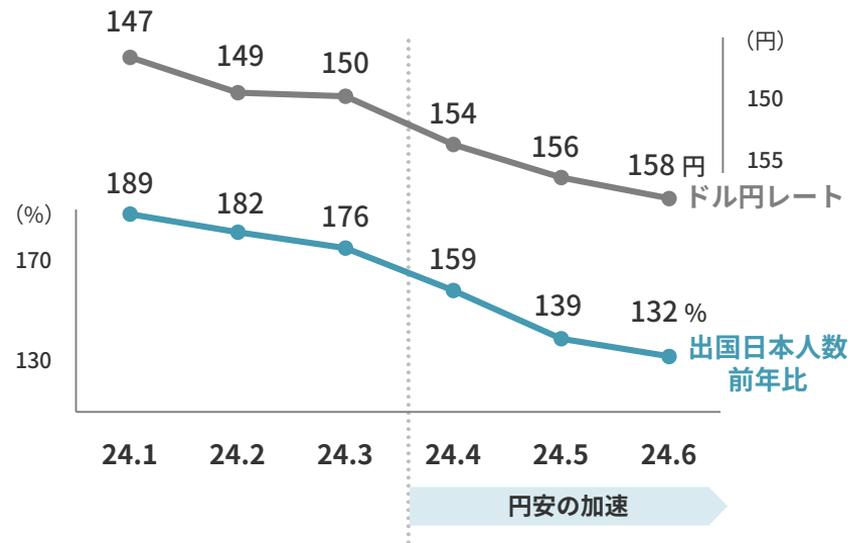
想定以上の円安影響により海外旅行利用が減少、トラベル&エンタメ取扱高の基調が低下

■ エポスカード トラベル&エンタメ取扱高前年比



加盟店手数料収入減少 (△1億円) + ポイント費用等減少 (+1億円) = 利益影響 (±0億円)

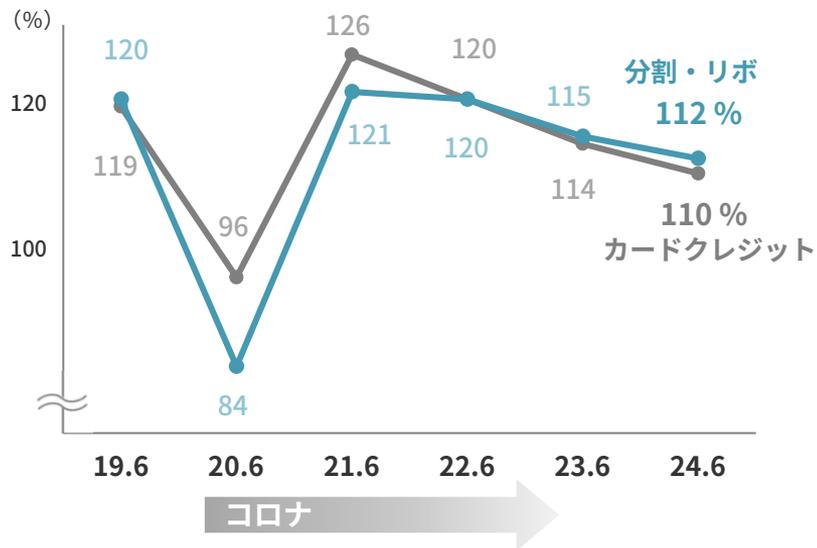
■ ドル円為替レート月平均・出国日本人数 前年比 (推計値)



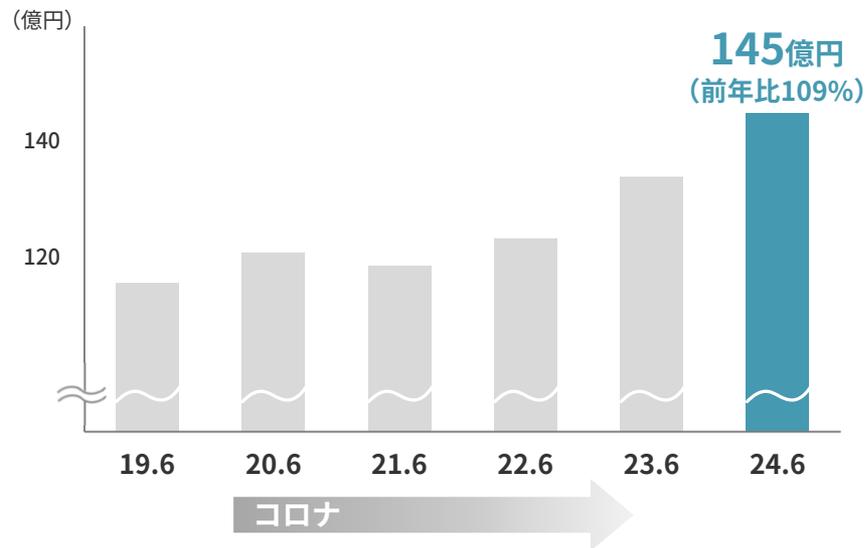
* 出典：JNTO 訪日外客統計 出国日本人数

分割・リボ取扱高はカードクレジット取扱高の伸長を上回り、手数料は9%増の145億円と拡大

■ 取扱高前年比

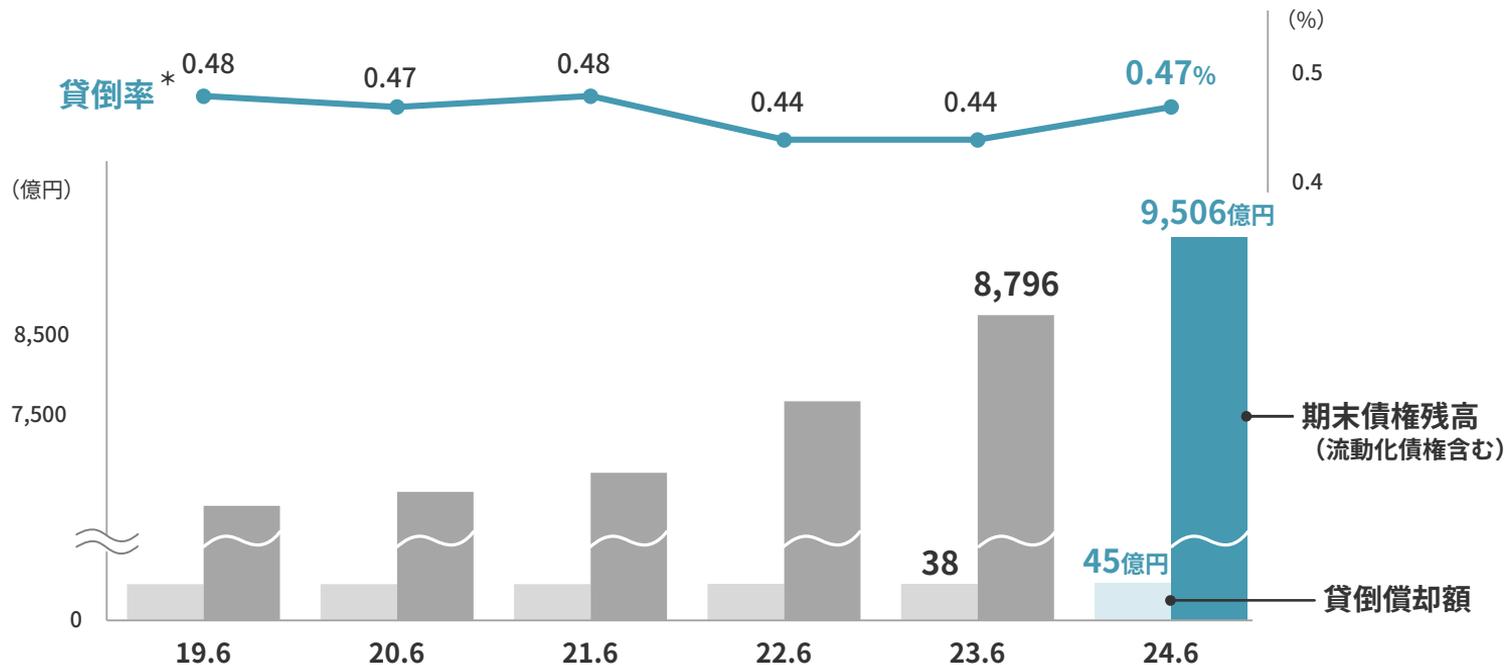


■ 分割・リボ手数料の推移



債権残高の拡大に伴い貸倒償却額は増加、貸倒率は0.47%

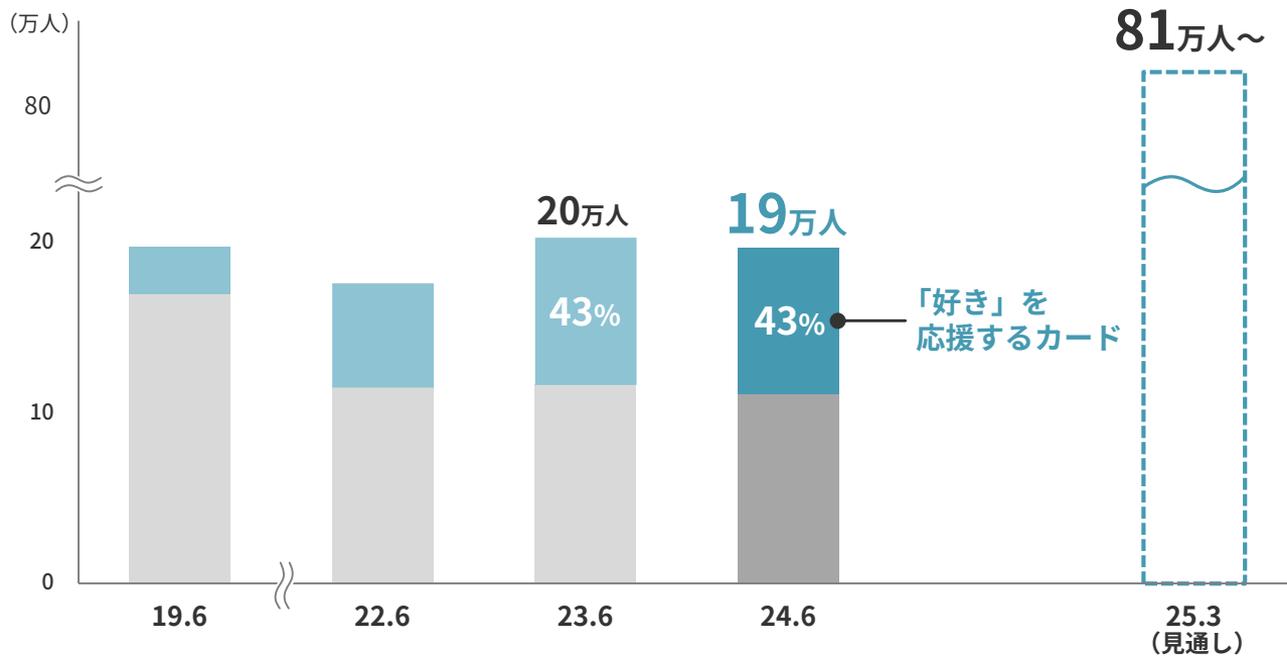
■ 貸倒率の推移



*貸倒率 = 当期貸倒償却額 ÷ 期末債権残高

前年の大型案件影響により第1四半期の新規入会は減少も、年間では前年を上回る見込み

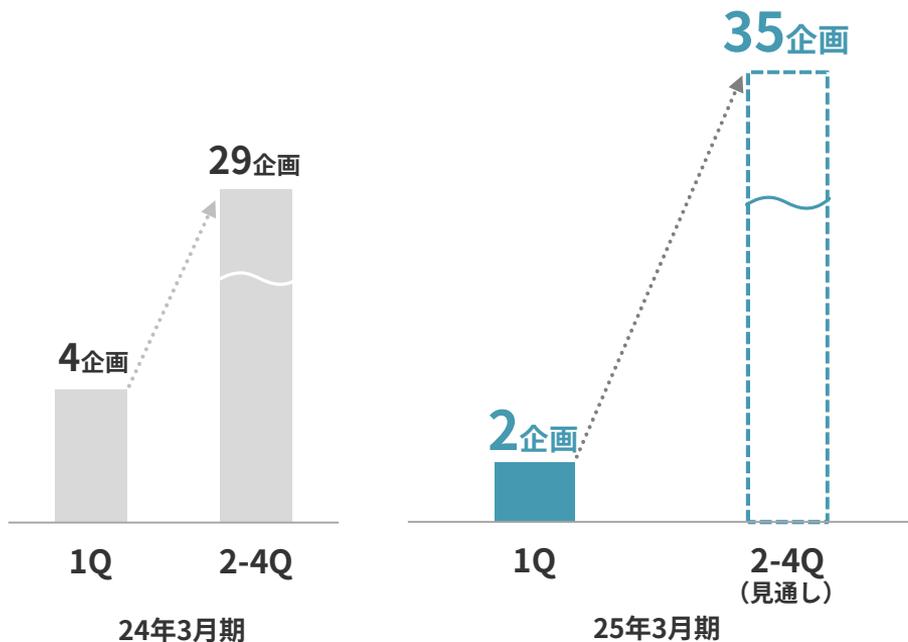
■新規入会の推移



「好き」を応援するカードの広がり

「好き」を応援するカードの新規発行は第2四半期以降に拡大を見込む

■ 「好き」を応援するカード 企画数



■ 今後発行予定の「好き」を応援するカード



ピノキオピーエポスカード
(24年8月)

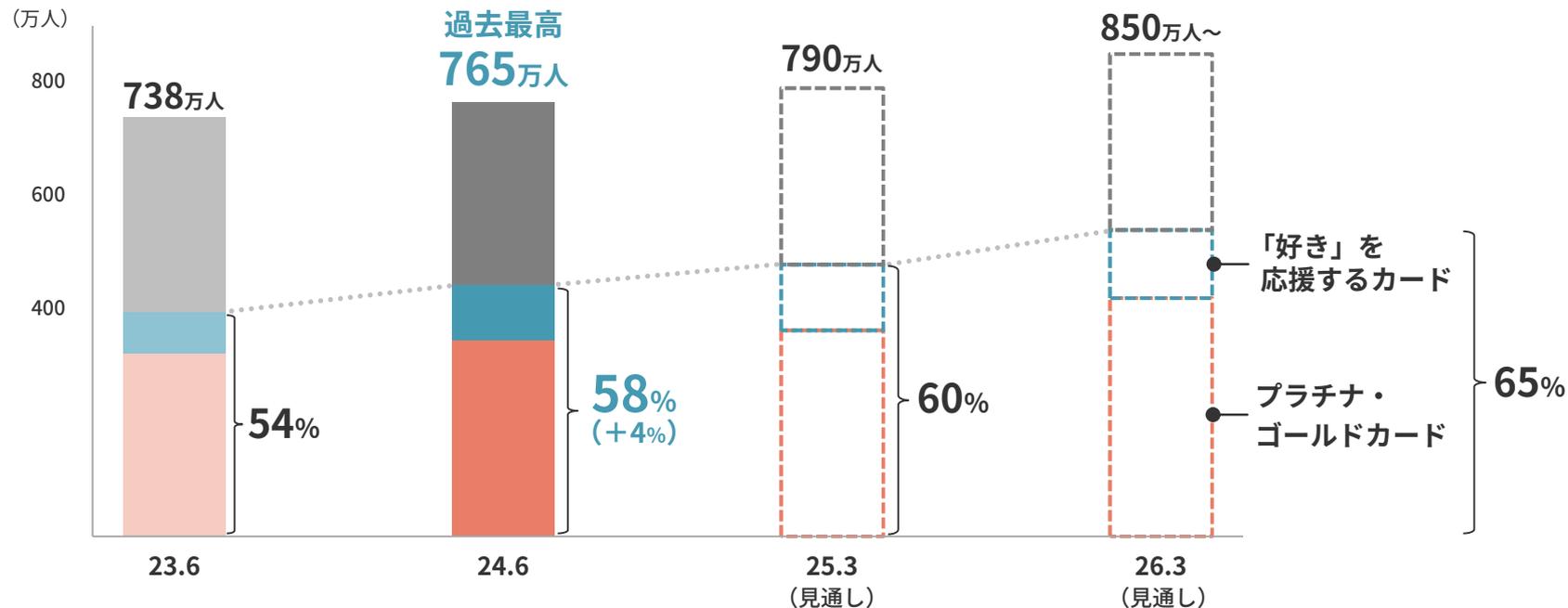


HoneyWorks～告白実行委員会～
エポスカード
(24年8月)

カード会員数の推移

カード会員数は過去最高の765万人（前年差+27万人）

■ カード会員数の推移



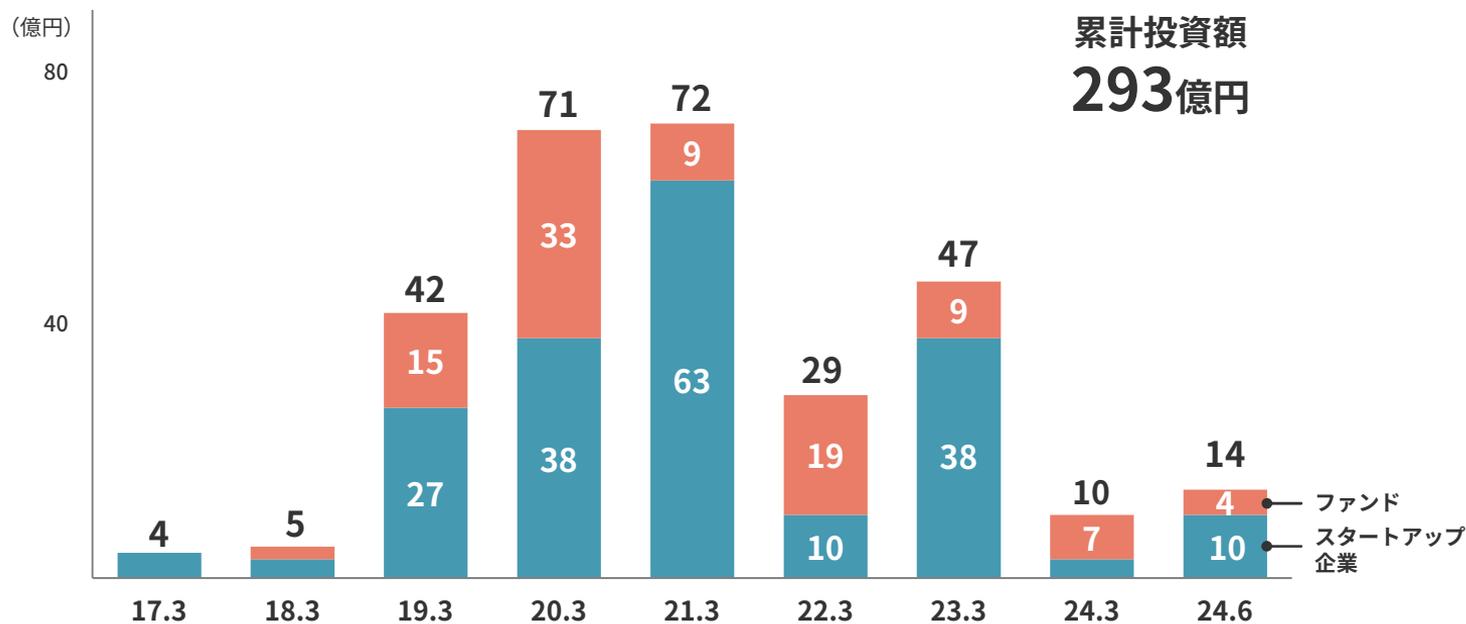
25年3月期 第1四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ **共創投資**
- ・ BS/資本配分
- ・ ESG

通期見通し

投資額は14億円、これまでの共創投資累計額は293億円

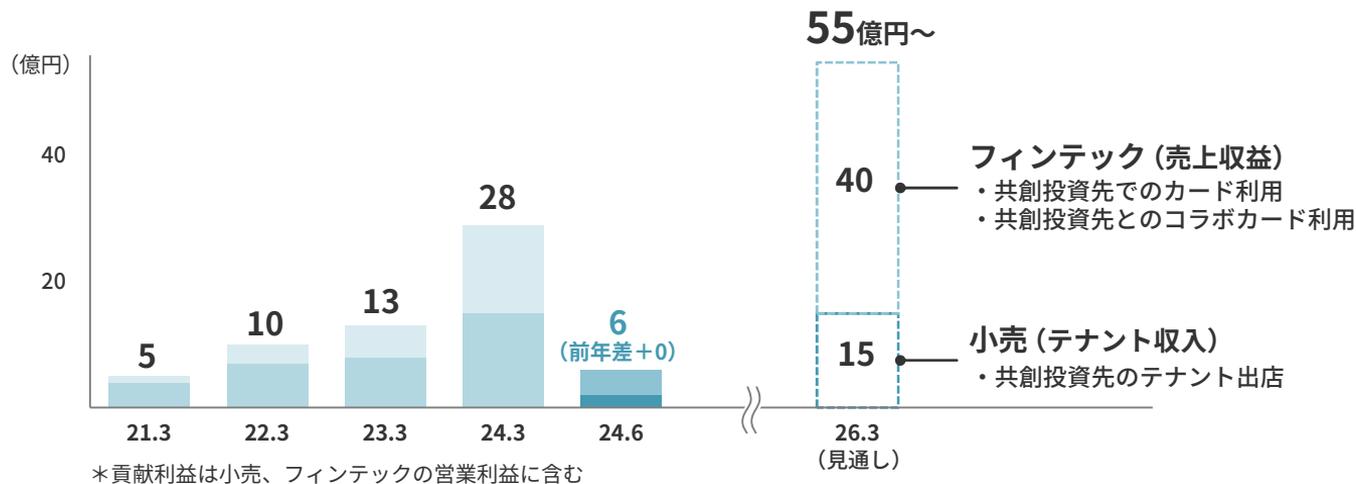
■ 共創投資の推移



*D2C & Coからの投資を含む

第1四半期の貢献利益は6億円、IRRは10%

■ 貢献利益額



■ IRR 24年6月期 ハードルレート

10% \geq **10%**

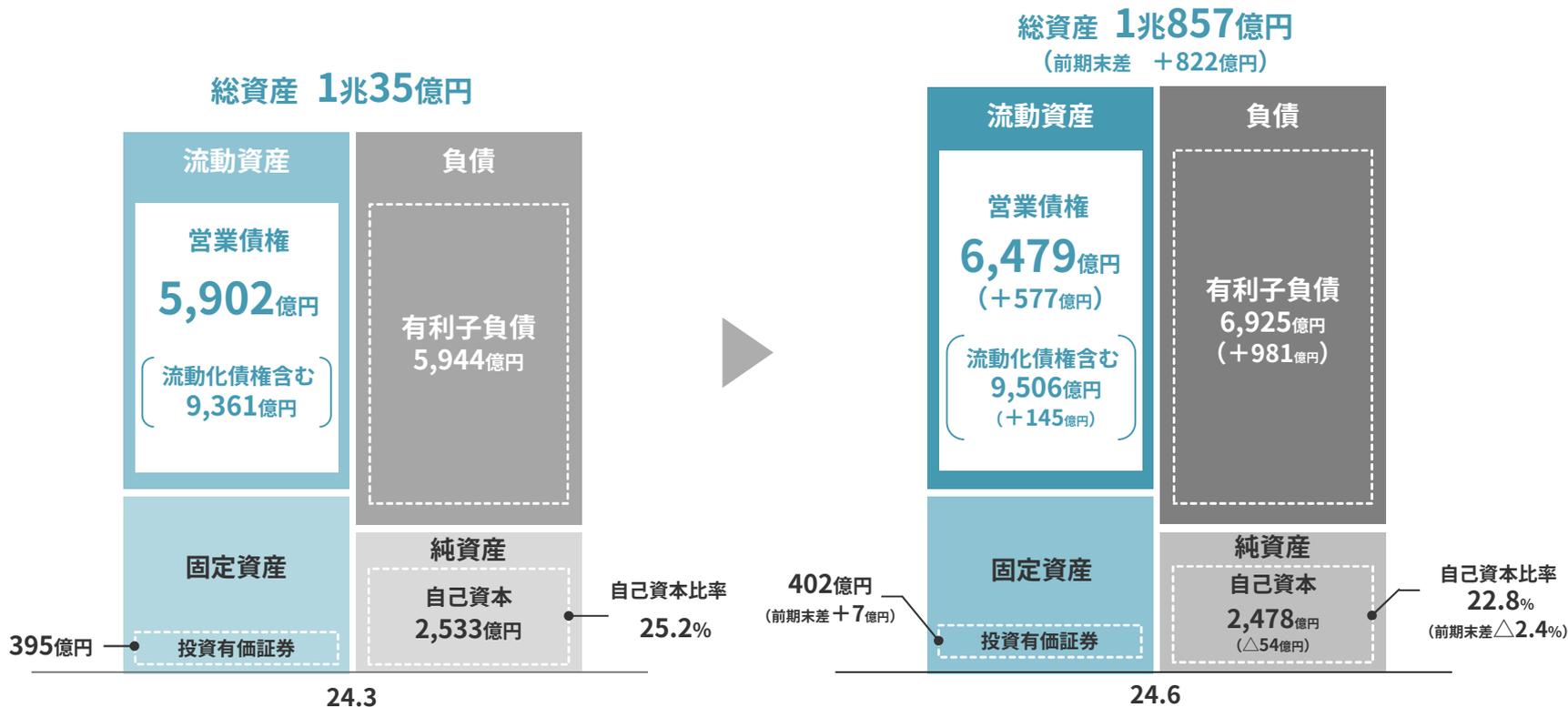
25年3月期 第1四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 共創投資
- ・ **BS/資本配分**
- ・ ESG

通期見通し

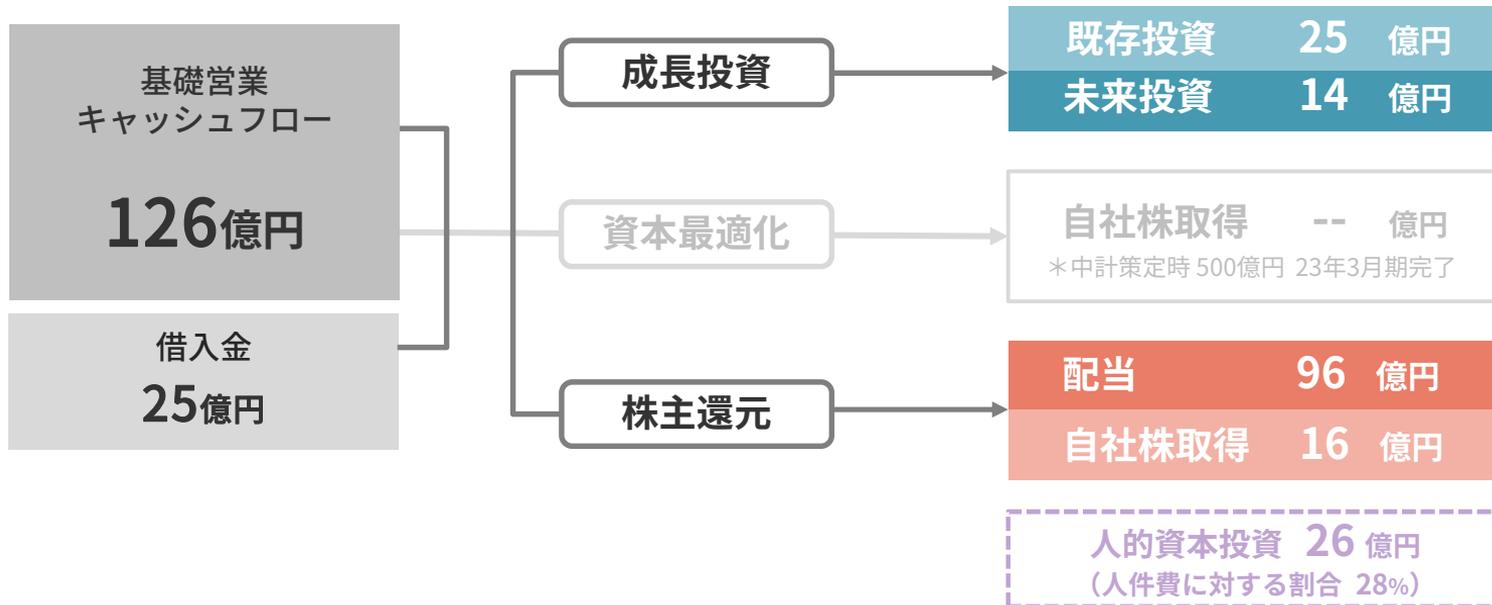
バランスシートの状況

総資産は1兆857億円となり前期末より822億円増加



成長投資に39億円、資本最適化を維持しつつ、株主還元には112億円を配分
 人的資本投資は26億円（人件費に対する割合28%）

■ 資本配分（25年3月期 第1四半期）



*社員への株式付与に伴う20億円の自社株取得を実施
 当期償却分（5年償却）を計上

25年3月期 第1四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 共創投資
- ・ BS/資本配分
- ・ **ESG**

通期見通し

■ 主な外部評価

Member of

Dow Jones Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA

- DJSI World Index 6年連続
- DJSI World Asia Pacific Index 7年連続



CLIMATE

5度目の認定
(24年3月)



FTSE4Good

*1

8年連続
(24年8月)

• GPIFが採用する6つのESG指数 (24年8月)



FTSE Blossom
Japan



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

2024 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

*2



*1 FTSE Russell (the trading name of FTSE International Limited and Frank Russell Company) confirms that MARUI GROUP CO., LTD. has been independently assessed according to the FTSE4Good criteria, and has satisfied the requirements to become a constituent of the FTSE4Good Index Series. Created by the global index provider FTSE Russell, the FTSE4Good Index Series is designed to measure the performance of companies demonstrating strong Environmental, Social and Governance (ESG) practices. The FTSE4Good indices are used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.

*2 TERMS AND CONDITIONS <http://info.msci.com/l/36252/2017-06-27/kj5n9b>

25年3月期 第1四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 共創投資
- ・ BS/資本配分
- ・ ESG

通期見通し

EPS・ROE・ROICの3KPIは年初計画どおりの見通し

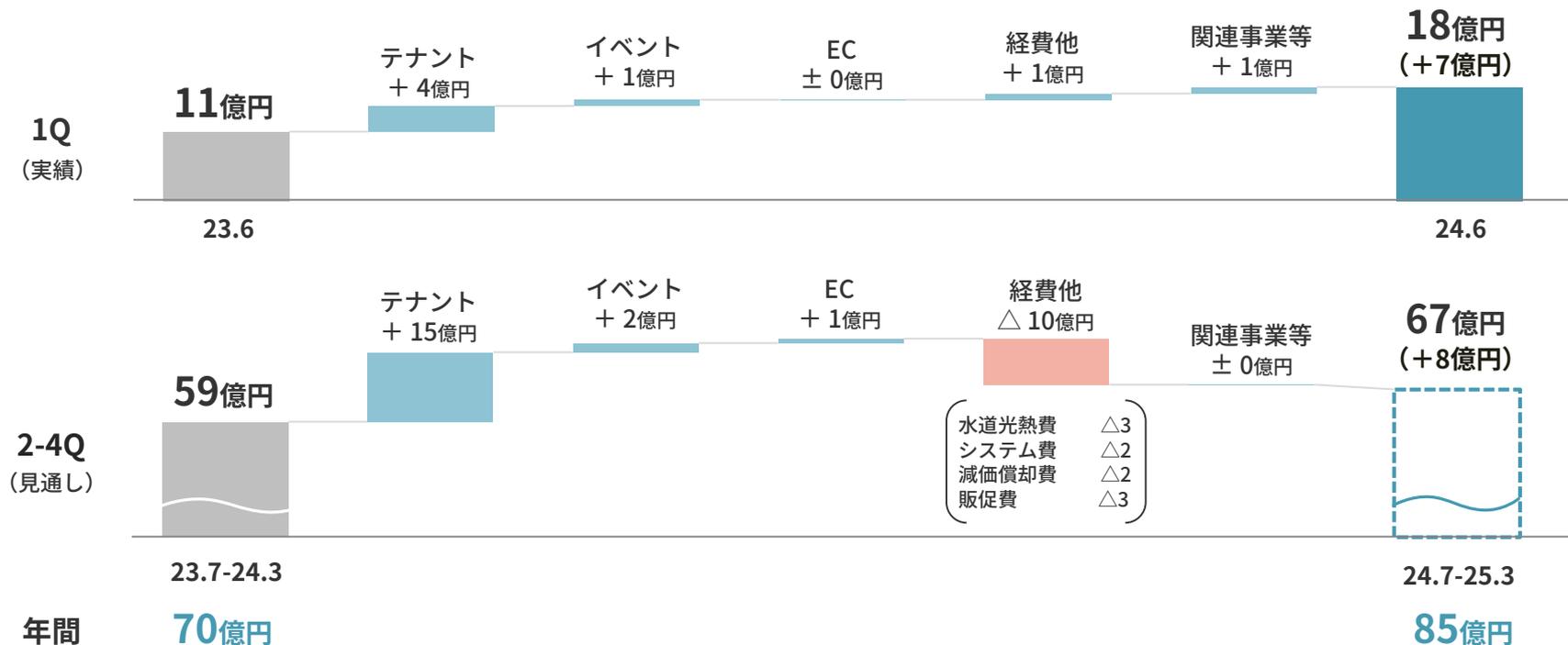
	24年3月期	25年3月期	公表差	前年比	前年差
EPS (円)	130.7	141.4	-	108	+10.7
ROE (%)	9.9	10.4	-	-	+0.5
ROIC (%)	3.6	3.7	-	-	+0.1
CO2削減量	35万t	38万t	-	109	+3万t
< 参考 >					
	兆 億円	兆 億円	億円	%	億円
グループ総取扱高	4 4,872	4 9,800	△300	111	+4,928
売上収益	2,352	2,542	△3	108	+190
売上総利益	2,056	2,232	△3	109	+176
販管費	1,646	1,782	△3	108	+136
営業利益	410	450	-	110	+40
当期利益	247	265	-	107	+18

小売は22%増の85億円、フィンテックは5%増の445億円を見込む

	24年3月期	25年3月期	
		前年比	前年差
	億円	%	億円
小売	70	122	+15
フィンテック	424	105	+21
全社・消去	△83	-	+3
連結営業利益	410	110	+40

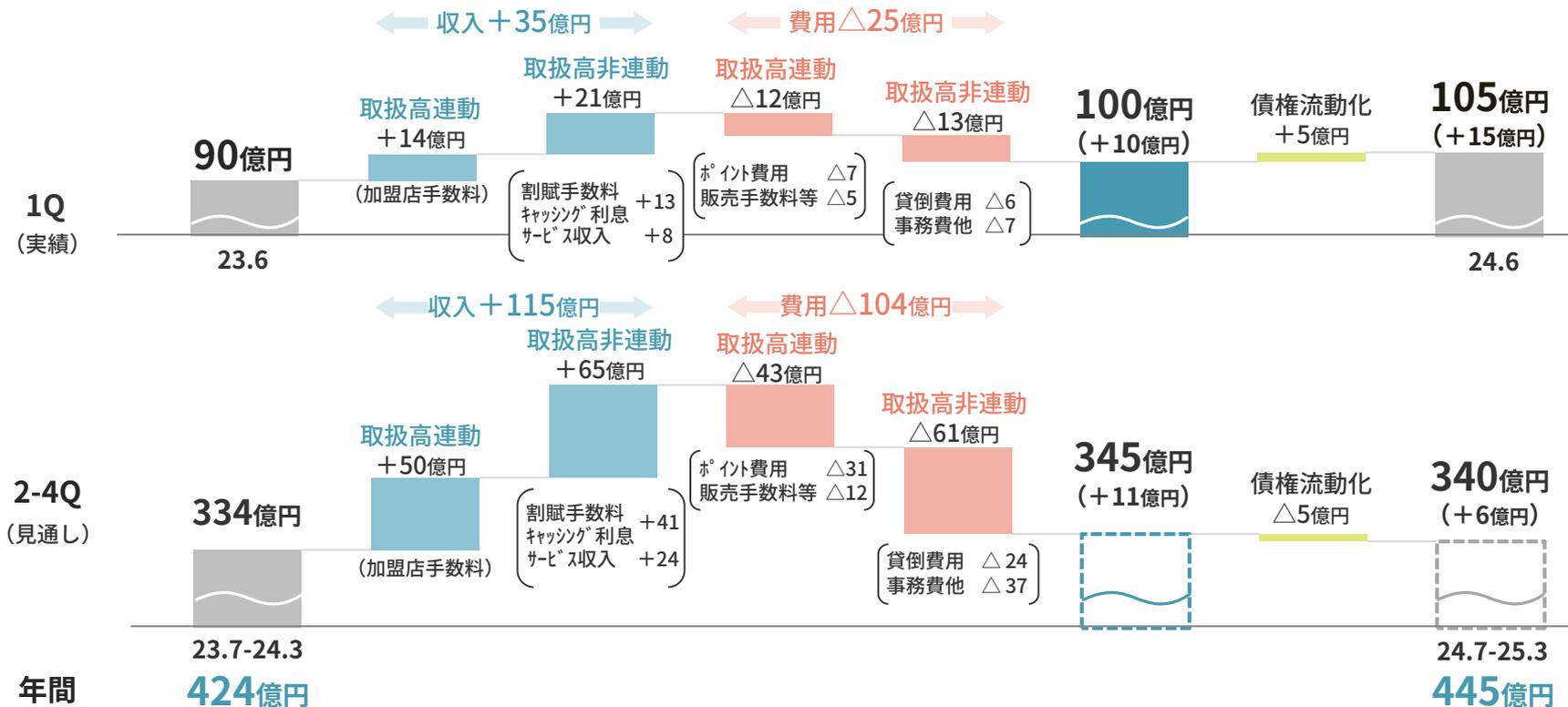
小売 営業利益の見通し

2~4Qはテナント収入の拡大等で営業利益は+8億円の見通し



フィンテック 営業利益の見通し

2~4Qは売上収益の拡大と変動費削減等の効果で実質営業利益は+11億円の見通し





本資料に掲載しております将来の予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。お問い合わせは、I R部 marui-ir@0101.co.jpにご連絡ください。

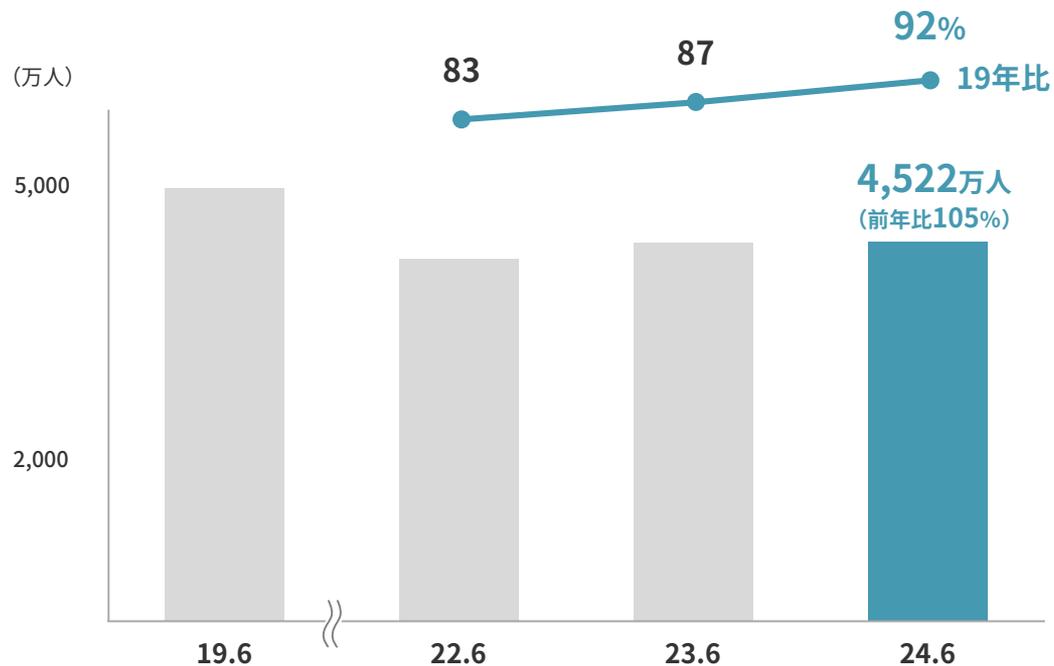
Appendix



入店客数の推移（既存店）

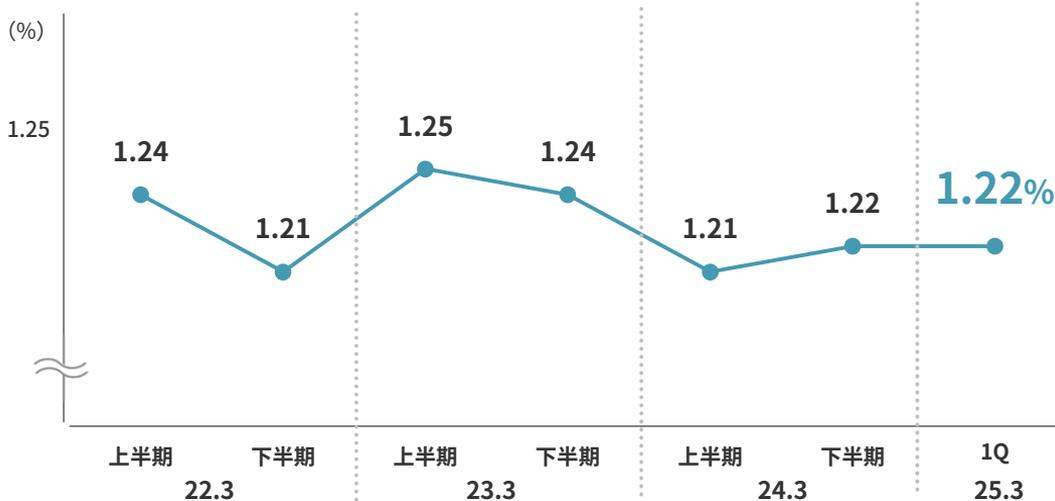
入店客数は順調に増加し4,522万人（前年比105%）

■ 既存店入店客数



第1四半期の加盟店手数料率は前年差+0.01%増の1.22%となり安定的に推移

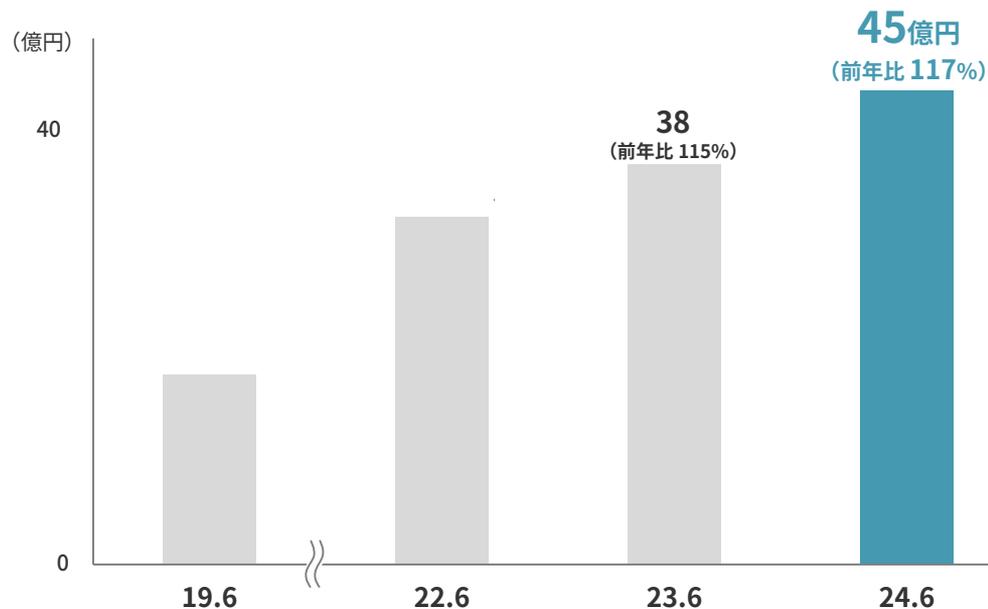
■ 加盟店手数料率の推移



*加盟店手数料率：フィンテック取扱高に対する加盟店手数料収入の比率

取扱高の伸長により売上収益は17%増の45億円

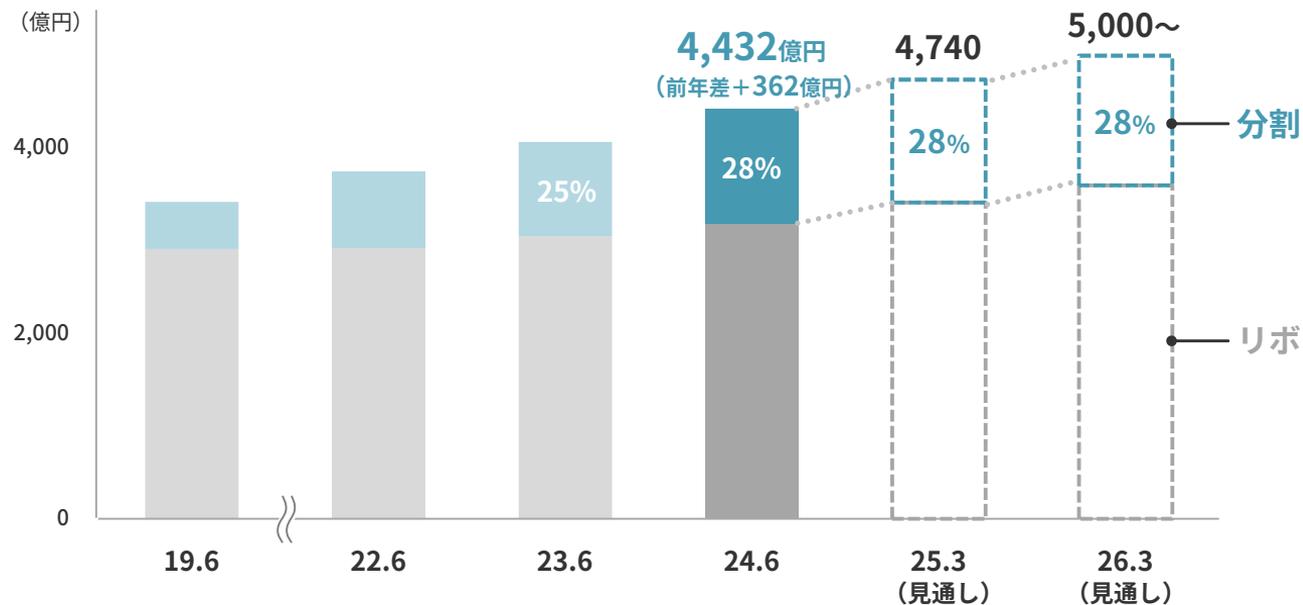
■ 売上収益の推移



分割・リボ債権残高の推移

取扱高の順調な拡大により、分割・リボ債権残高は4,432億円（前年比109%）

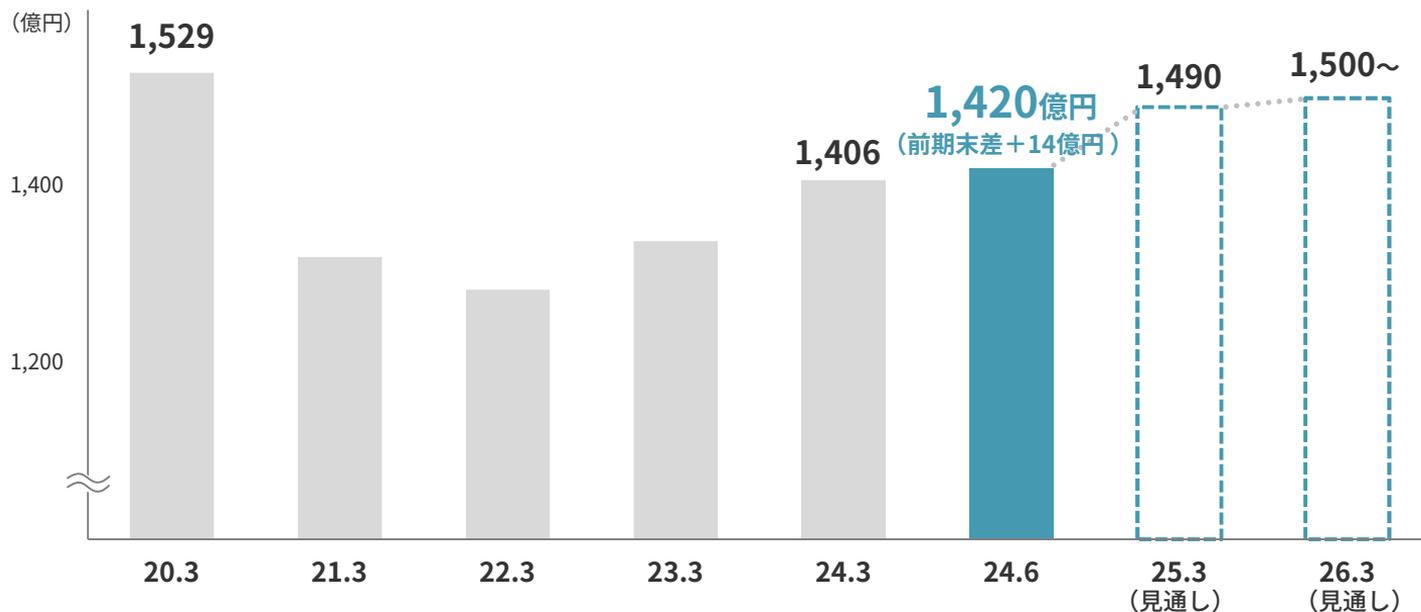
■ 分割・リボ債権残高推移（流動化債権を含む）



キャッシング債権残高の推移

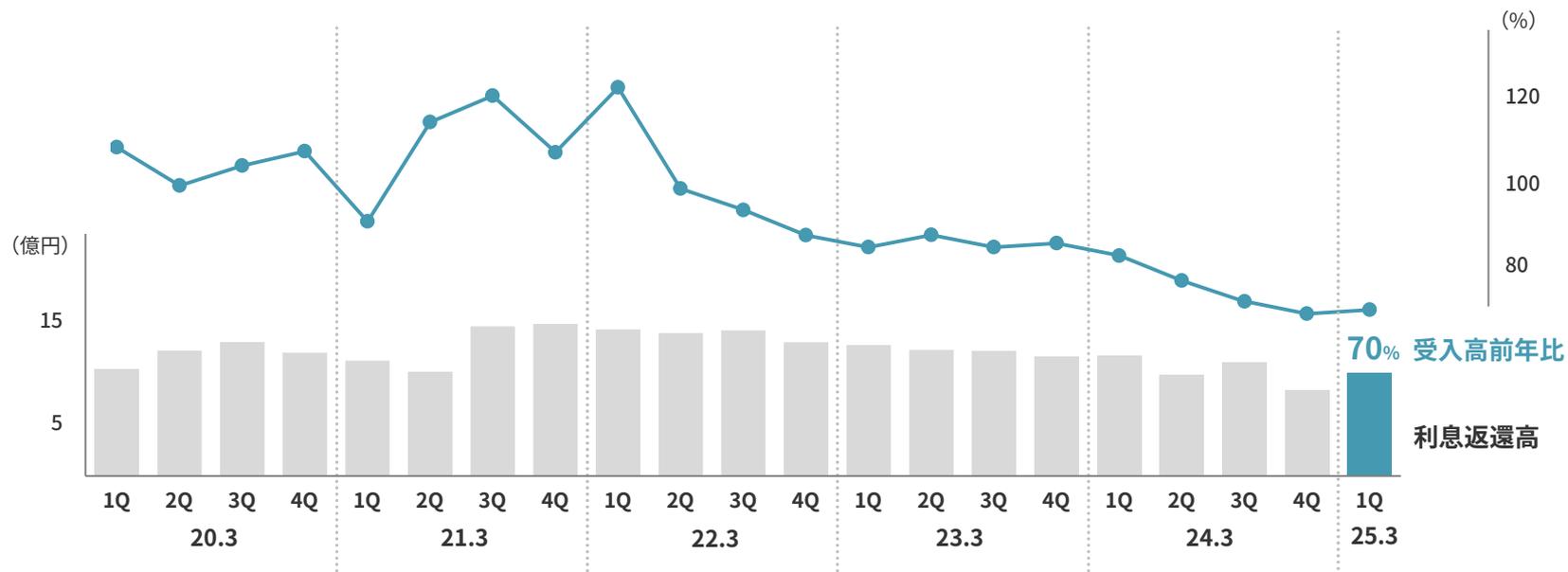
キャッシング債権残高は前期末から14億円増加し1,420億円

■キャッシング残高推移（流動化債権を含む）



先行指標の受入高は減少傾向も、今後も継続して動向を注視

■ 利息返還高と受入高前年比の推移



END

